

地域とのコミュニケーション能力を高める総合的な学習の研究

—自慢情報 Itayanagi—

佐藤 康子 板柳町立板柳北小学校

要旨

平成14年度板柳北小学校6学年児童45名を対象として【板柳町の特長】についてアンケート調査した。その結果、上位から順に「りんご」「国際交流の町」「ふるさとセンター」の3つが挙げられた。児童は、その中から自分の興味・関心を中心に課題設定し、学習計画を作成した。学習を進める中で、「りんごがきっかけとなった中国やアメリカとの国際交流」「ふるさとセンター創設時のりんご物語」など、今まで知らなかった板柳町のたくさんの表情を発見し、ふるさとの町への認識を新たにすることができた。

子ども達のふりかえりシートから見られた別の学習の成果は、コミュニケーション能力の高まりである。地域の人達のがんばっている姿を取材した『自慢情報 Itayanagi』の学習で、児童も教師も大きな壁に何度も阻まれ悩みながらも、地域のたくさんの人達からのアドバイスや協力を得、そして、児童の活動に対しての評価をもらう機会を得た。結果として、児童自らが問題を解決する力をつけ、まとめの表現までたどりつくことができた。

児童は、地域とのコミュニケーション能力を高める総合的な学習の時間の『自慢情報 Itayanagi』を通して、自分達は多くの地域の人達に支えられて生きていることに気づき、自分達の町に対しての興味・関心をさらに高めていったと思う。

【キーワード】 小学校 総合的な学習 コミュニケーション能力 問題解決学習 板柳町

1. はじめに

IT化の波は一般社会だけでなく教育の場にも大きく押し寄せ、IT化時代に即した教育が学校現場で要求されている。メディア環境の変化によって子ども達の生活はすっかり変わってしまった感がある。板柳北小学校6年生の児童も今までの学習の積み重ねから、インターネットやファックス、図書等を活用した机上の情報収集能力が比較的高く「情報は自分の必要な時に引き出す事ができる」という感覚を身につけている。児童はパソコン操作の技能もあり、休み時間にはキーボード練習を進んでやっている。なお、去年は中国へのメール送信にチャレンジし、自分達の総合的な学習を自校のホームページにチームごと書き込む体験もしている。しかし、総合的な学習の時間（以下総合的な学習）やその他の教科で、パソコンやインターネットから引き出した情報を、読めないままの字や意味のわからないままの記事を模造紙に貼り付けた発表をすることも少なくない。ファックスに至っては、自分が相手に質問を送ればすぐに返事を返してくれるものだという感覚にもなっている。

そこで、総合的な学習「自慢情報 Itayanagi」ではこのような児童の実態と以下の3つの視点から、児童の生活と成長の場としての学校や地域の人達との、言葉や心の交流を重視したコミュニケーション能力を高めるための学習を展開した。

- ・中学生へむけて子ども達が学区から町内へと生活基盤を広げて行く時期にある事
- ・親や教師以外の地域に住む大人と接する機会が意外と少ない事
- ・学校の中から飛び出し、世代を超えた地域の人達にインタビューや取材をする場を設定する事

学習指導要領に「地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること」¹⁾とあるように、今回の学習では地域に学びながら地域に対する認識、地域に対する愛着、

所属感を育成することをめざし、地域のたくさんの人と関わり合おう」「地域に飛び出そう！地域に情報発信しよう！」を合言葉に活動を進めた。

また、平成12年度の教育課程審議会【児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について(答申)】は「4 評価方法の工夫改善」の中で「また、児童生徒による自己評価や児童生徒の相互評価などを生かすことや保護者による評価、教育活動に協力した地域の人々などによる評価を参考にすることも有効である。」としている。この学習では児童の評価や教師の評価のみならず、児童の活動を地域の協力者や保護者に評価してもらう評価方法の工夫を試みた。

2. 総合的な学習「自慢情報 Itayanagi」の学習による児童の変容

2-1 研究の目的

平成14年度の板柳町立板柳北小学校6学年を対象児童とし、「りんご」「国際交流」「ふるさとセンター」の3つのテーマをもつ、総合的な学習「自慢情報 Itayanagi」を通して次の3点を探る。

- ・学習によって対象児童の「板柳町に対する意識」に変化があったのかを調査し、学習の有効性を探る。
- ・この学習によって、「コミュニケーション能力」が向上したかを調査する。
- ・評価の方法について工夫改善を図る。

総合的な学習の教材や活動は保護者や地域住民との双方向の関わりの中で、共に知恵を出し合い作っていくべきである。評価は情報を発しないと生まれない。そのために学習成果を、ビデオ、紙芝居、絵本、模造紙、劇、ペプサート、実物を作る等々、様々な方法で表現するように、児童に指導した。

2-2 調査方法

児童を対象に調査を実施した。

- (1)「板柳町に関するアンケート1」(参考資料1)
 - ・課題の焦点化を図るために実施した。(平成14年8月25日)
- (2)「板柳町に関するアンケート2」(参考資料2)
 - ・意識の変化を探るため学習前と学習後に実施した。
 - ・自由記述の部分から質的な違いを検討し考察した。
(学習前の調査～平成14年10月7日、学習後の調査～平成14年12月13日)
- (3)「ふりかえりカード」
 - ・人とのコミュニケーション能力の変化を探るため学習後に実施した。(平成14年12月18日)

2-3 対象

板柳町立板柳北小学校 平成14年度6学年 男子16名 女子29名 計45名

2-4 授業実践

実際の授業は単元の指導計画に従い、30時間の計画で、多様な追求方法、表現方法を可能にするため、著者を含む2名のTTで行った。

30時間の学習指導案を表1に示す。授業は概略、実態調査→全体計画→課題設定→調べ学習→体験活動→表現→ふりかえりの順に行なった。課題は、「りんご」「国際交流の町」「ふるさとセンター」の中から、興味・関心に応じて児童に設定させた。これらのキーワードは予め児童を対象として、アンケート調査を実施して得た。

表現は保護者等を聴衆として行い、表現に至るまでに、児童同士のまとめの表現と中間発表会をそれぞれ 2 回行なった。体験活動は、ふるさとセンターと町役場で行なった。また中国料理の体験活動を家庭科室で行なっている。

表 1 単元「自慢情報 [tayanagi]」の指導計画

時間	段階	学習内容	学習場所
1	実態調査	・板柳町に関するアンケート 1 を実施する	教室
3	課題設定 全体計画作成	・個人の興味関心による課題を設定する ・課題に基づきグループを作成する ・グループで全体計画を作成する	教室
3	調べ学習	・全体計画に基づく調べ学習を実施する ・インタビュー計画の作成 ・電話、ファックスのかけ方の学習 ・役割分担を考える	視聴覚室 図書室 教室
2	体験活動	・ふるさとセンターや役場、公民館 教育委員会、菓子店等でインタビュー を行なう	ふるさとセン ター、役場 教育委員会
2	体験活動	・中国料理の体験活動を行なう	家庭科室
3	まとめの表現	・学習をまとめ、自分なりに表現をする	教室
3	中間発表会 1	・お互いの発表を聞き合い、意見交換を し、お互いにアドバイスしあう	教室
3	まとめの表現	・学習をまとめ、自分たちの表現を工夫 改善する	視聴覚室 教室
3	中間発表会 2	・改善された発表を聞き合い、意見交換 をし、アドバイスをしあう	プレールー ム
2	発表会練習	・発表の最終チェックを行なう	体育館
2	表現	・発表参観日に表現する	体育館
2	表現	・対象に表現する	教室
1	ふりかえり	・学習をふりかえりシートにまとめる	教室

2-5 評価について

本研究の評価に関して次の 3 点を工夫した。

①学習や指導の具体的・実践的な改善に役立たせる観点から、総括的な評価を行うとともに、数量と記述の両面から評価の工夫をした。

②子ども達の意識や能力の変化をくわしく観察するために、学習前と学習後のほかに、学習過程中においても評価を行なった。

③多様な方向から単元や児童の活動を評価する観点として、評価は子供達のチェックシートを活用した自己評価と子供達の相互評価、教師、保護者、協力者から多角的に評価をしてもらえるようにした。

これからの学校作りでは学校から保護者、地域の住民とどうかかわっていくかということが重要な課題であり²⁾、教師や児童のほかに、地域の協力者や保護者にも評価してもらった。児童に意識調査（選択式と自由記述）と振り返りシートを記入させた。その他児童の態度、話し方等を観察した。

教師、保護者、協力者は自由記述の感想文によった。

3. 結果と考察

(1) 板柳町に関する児童の意識調査 学習前・学習後の比較結果

- ① アンケート実施日 学習前 平成14年10月 7日 45名実施
 学習後 平成14年12月13日 44名実施
- ② アンケートの集計結果を図1から図4に示す。

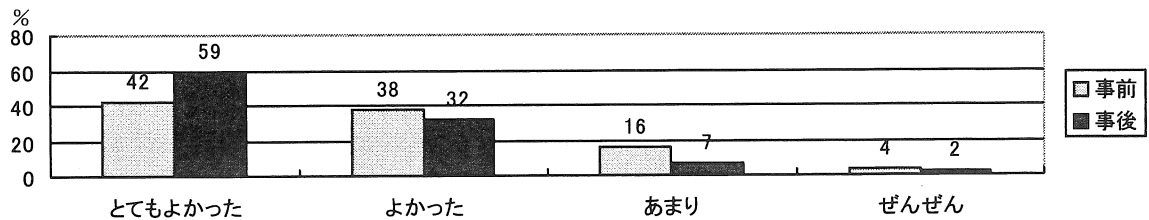


図1 質問①「板柳町に生まれて良かったか」の意識の変化

学習後の調査では、およそ90%の児童が板柳に生ませて「とてもよかった」+「よか

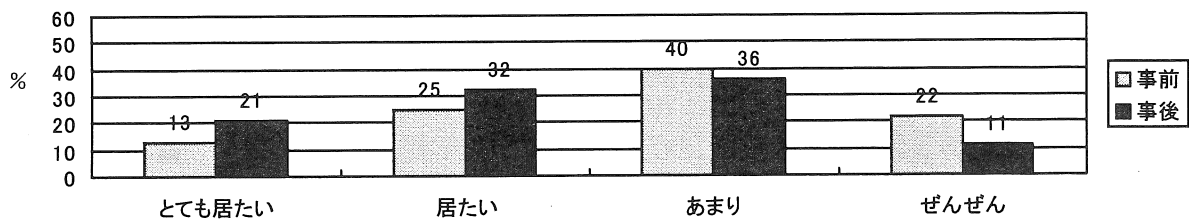


図2 質問②「板柳町に将来ずっと居たいですか？」の意識の変化

った」と思っている事がわかった。

図1から学習後の結果を見てみると、質問①「板柳町に生まれて良かったと思いますか？」については「とても良かった」という児童が42%から59%に増加した。

「良かった」という児童は学習後は32%である。この2つを合わせておよそ90%の児童が板柳に生ませてよかったと思っている事がわかった。理由として、学習前の調査では【りんごがおいしいから】【自然がいっぱいだから】という記述が多かったが、学習後は【安全で元気な町だから】【やさしい人がいるから】【国際交流している、良い施設がある】の記述が見られるようになった。総合的な学習から学んだことを理由に挙げる児童もいた。学習を通して町に対する児童の視点も変わってきたのではないか。

学習後の質問項目②「板柳町に将来ずっと居たいですか？」について図2から学習後の結果で見ると板柳町に「とても居たい」「居たい」という児童が半数以上いる。全然居たくないという児童は学習前と後で比較すると半分に減っている事がわかる。

自由記述部分から、子ども達なりに市町村統合も考えた上で【板柳の近くに居たい】【生まれた所に近い場所に居たい】という理由が多かった。しかし、現実問題として【居たいけれど違う仕事もしてみたい】ということで、働く所や職種の問題も出てくる。

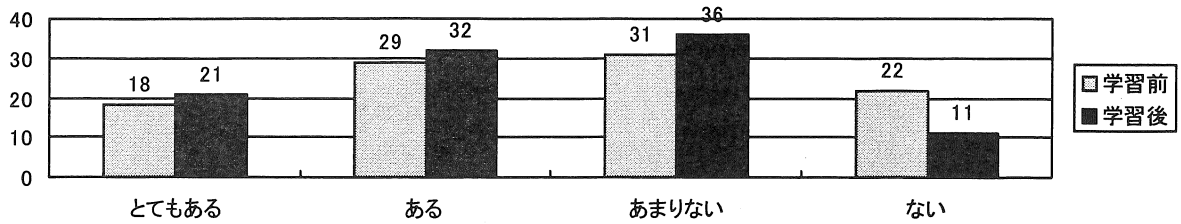


図3 質問③「板柳町に興味がありますか？」に関する意識の変化

図3の質問③学習後の結果から、板柳町に関して「とても興味がある」と「興味がある」を合わせると学習後は53%にも増加した事がわかる。学習後の調査の記述部分からは【自分の町だから知っておかなければならない】という町に対しての責任感が出てきている児童もいた。また、どんな事に興味を持ち、調べたい事は何かに対して学習前は漠然とした答えが多かったが、学習後は【板柳の建物】【板柳の行事】【国際交流】【板柳の歴史】などの具体的な答として返ってきた。

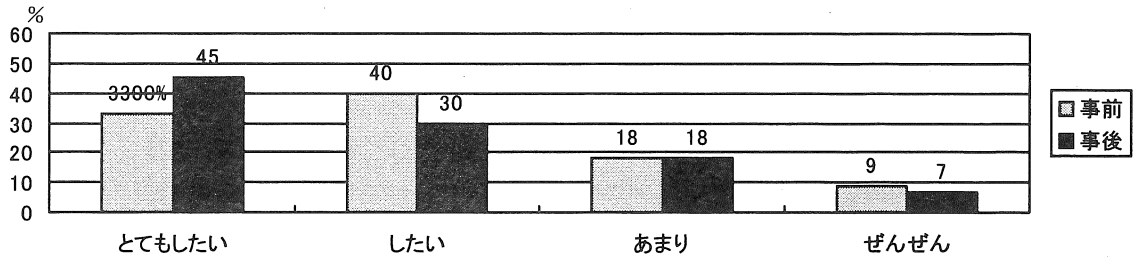


図4 質問④「板柳町のために役だつ事を何かしたいですか？」の意識の変化

図4から質問④に関して見る。学習前から73%の児童がふるさと板柳町のために何か「とてもしたい」「したい」と考えている事がわかる。これは、日頃から板柳町に対して愛着を持っているからであろう。75%の子が何かをしたいと答えている。学習後にはわずかに増えたのみである。

しかし、自由記述の部分から意識の変化が明らかになった。学習前の調査では【ごみを拾いたい】【高齢者施設に行って世話をしたい】などの答が多かったが、学習後の調査では【りんごを売る】【りんごを爆発的に売るアイデアを考えたい】【りんご型の建物を建てたい】【町民祭で発表し役立ちたい】【ふるさとセンターの活用方法を考えたい】があり、りんごやりんごジュースを売る工夫やアイデアを具体的にイメージしている事がわかる。町民祭やふるさとセンターで町民への情報発信の機会を持った事は、子ども達の誇りの一つなのである。【自分達はこの町の人達にたくさんお世話になっているので今度はお世話する番】があった。子ども達の意識がこのように変容してきたのは、自分のふるさとに対する自信からくるのだろう。

質問項目⑤では、4つの質問項目で児童の町に対する意識を数値で表した。学習前と学習後での変化をみた。表2に表した数字は人数を表し()内は%を表した。1~4の4段階評価で行い、段階が高いほど肯定的な答えである。

表2から「パワーのある町」に関して「4」「2」がともに増えた。これは【板柳町受難の年】が子ども達の意識にも関係しているのかもしれない。板柳町が置かれた立場やりんご産業の大変さを学習を通して学んだのであろう。しかし「1」段階に着目すると学習後が2%と激減している。前向きにがんばる大人のパワーを子ども達は評価しているのだろう。

表2 児童の町に対しての意識の点数の集計表

質問項目 「板柳町はパワーのある町」					
	4	3	2	1	平均
学習前	5(11%)	31(67%)	13(29%)	6(13%)	2.64
学習後	8(18%)	19(44%)	16(36%)	1(2%)	2.77
質問項目 「板柳町は健康な町」					
	4	3	2	1	平均
学習前	9(20%)	23(51%)	12(27%)	1(2%)	2.89
学習後	20(46%)	19(43%)	4(9%)	1(2%)	3.32
質問項目 「板柳町は明るい町」					
	4	3	2	1	平均
学習前	10(22%)	23(51%)	12(27%)	0(0%)	2.96
学習後	17(39%)	17(39%)	10(23%)	0(0%)	3.16
質問項目 「板柳町の人は幸せ」					
	4	3	2	1	平均
学習前	10(22%)	24(53%)	9(20%)	2(5%)	2.93
学習後	20(46%)	17(39%)	6(14%)	1(2%)	3.27

「板柳町は健康な町」に関して、学習後「4」が著しく増大した事が表2からわかる。これは、自主的に取材・交渉し貰ったアップルファイバーや「りんごの栄養」のすばらしさを学んだ事、りんごの安全に対する町の対応を児童なりに判断した事の結果であろう。

「板柳のりんごはちゃんと調べているから1番安全なんだよ。だからまるかじりできるん

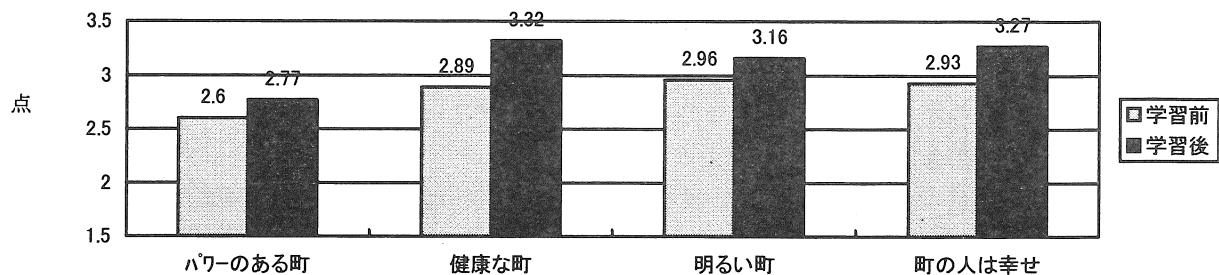


図5 町に対しての意識の平均点の変化

だってお母さんが言ってたよ。」ある子が言った。

「板柳町は明るい町」に関しては、ふるさとのために働いた人達のことを学んだ事や、現在抱えている問題に対して町の取り組みを児童は評価し【未来に向けてがんばる町が板柳町だ】ととらえたようである。「4」とても明るい、「3」の明るいを合わせると78%の児童に達している。

「板柳町の人は幸せ」これについて「4」と「3」を合わせると75%から85%に増加していることが表2からわかる。児童の声として「幸せ」な理由として、学習前に見られた自然環境的な面に加えて【板柳にはとても心のあたたかい人がいる。】とこたえた児童が多かった。

学習の前と後における4つの項目の平均点の移り変わりを図5に表す。どの項目でも学

習前に比べて学習後の平均値が上昇している事がわかる。

また、最後の質問として「板柳町を色で表すと何色になるか。」という問いには、学習前の調査では、1位は赤2位は緑3位は青という順になった。学習後の調査でも同様に、1位は赤2位は緑3位は青であった。学習前は「赤」に対してほとんどの児童が「りんごの赤」と答えているのに対して、学習後は【赤は無登録農薬の問題に対して立ち向かう情熱の赤】【みんな燃えてやる気を感じさせる赤】【板柳の人達の笑顔の色・赤】と答えた児童がいた。たとえ同じ色を答として選んだとしても、学習の前と後では児童の意識の中に変化があることが認められる。

(2) 自己評価から見た児童のコミュニケーション能力の変化

この学習では児童のコミュニケーション能力の変化を子ども達の態度・ふりかえりシート・話し方・依頼文や礼状の書き方から拾い出し、①言語的な能力の変化と②相手に伝える能力の変化、の二つの観点から調査した。①では地域の人達へのインタビューや電話やファックス送信文を書く等の能力が学習前と後では変化があったかを調べた。また②では、学習を通して収集した情報をそれぞれの表現方法でプレゼンテーションする時に伝える能力に変化が見られたかを調べた。

①言語的な能力の変化について

親や親戚以外の大人に対しての質問や電話は初めてという児童は半数以上だった。そこで、電話のかけ方や言葉使い、質問の計画から始めた。教室に電話のかけ方やFAXの書き方を掲示したり、劇化しながら学ばせた。その結果、【電話の相手と話すの面白い】【先生、電話してきていい?】【もっと聞きたい。】【電話かけるの得意になった。】という児童が増えた。ある男の子は【初めは緊張していたけど、電話するのが楽しくなってきた。】電話をする前、深呼吸していた子が楽しそうに地域の人達にいろいろな事を尋ねるようになった。

25人(80%)の児童が【インタビューの仕方がわかった。電話やファックスを使っている話し方、聞き方の能力が向上した】と図6で答えている。図6では、丁寧な言い方・取材のしかた・相手との話し方に関する成長を子ども達は1番感じた事がわかる。また、書くことに関しては初めて敬語を意識して実際に文を書いたという子もいた。

学校の授業以外にも、自分たちの交渉等での経験やネットワークを生かし、児童は

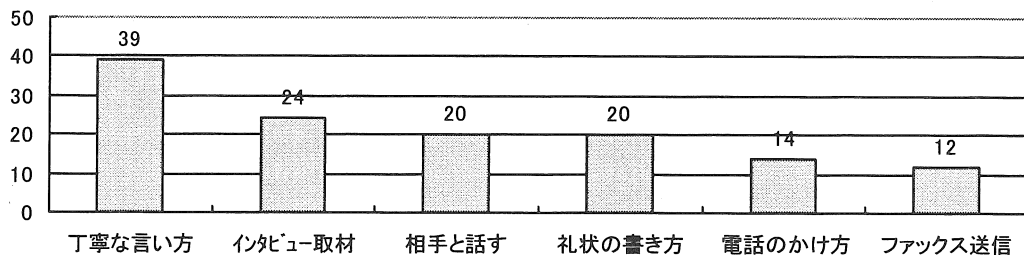


図6 ふりかえりシートからみた言語的なコミュニケーション能力の変化

自分達の知恵と自分達の足を使った活動をした。休みの日や放課後を利用して主体的に動き出したと思う。自分達の手だけで解決できない事は地域のたくさんの人達からのアドバイスや援助や励ましの声をもらい児童の学習は進められた。

②相手に伝える能力の変化

インターネットの資料や本からのコピーを模造紙に貼り付ける発表が多かった。基礎的な力が育っていないため、校内の研修会での児童の中間発表会を開いた教師達から【何を伝えたいのかわからない。】【単なる町の紹介】【時間を5分以内にまとめる事の必要性はあるのか】等の意見が出された。

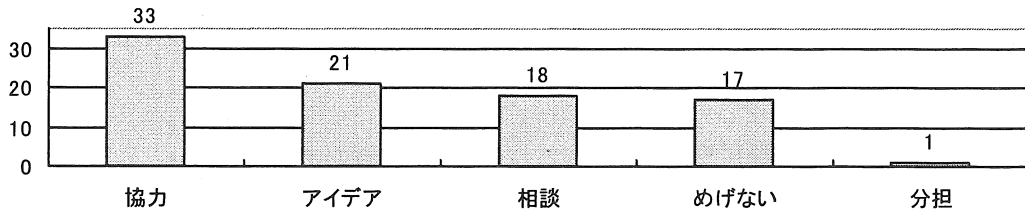


図7 ふりかえりカードから見た友情・協力・思いやりなどの精神面での成長

しかし、児童は評価を聞き、落ち込んだけれど、再度作り上げるために取りかかった。再度テーマから考え直し、相手に伝えるためもう一度考えてインタビューからやり直したチームもある。ビデオ「ふるさとセンターにかけた男達」のチームは協力者や登場する実在の人物に見てもらいたいと冬休み学校登校して撮影した。どのチームも収集した情報をそれぞれの表現方法でプレゼンテーションするとき最高の表現方法を見つけ出し演じていた³⁾と思う。

図7からは、児童がこの活動を通して協力しアイデアを出し合い相談した事がよくわかる。大切なチームワークや協力の大切さを感じたと思う。

(3) ふりかえりカードの自由記述から見た児童の情意的な評価

児童の「ふりかえりシート」の中の自由記述から、3つのキーワード【楽しかった】【大変だった】【良かった】の書かれている文章を抜き出しその要因を探った。

○【楽しかった】

- ・つらい事もあったけれど、楽しかった。
- ・インタビューに行く時は楽しかった。板柳の秘密を探ったり知らなかったこともあってわかったし、みんなで協力し楽しく学習できた。
- ・板柳の秘密を探ったりして楽しく学習ができた。

「調べる事や知る事は楽しい」と答えた子どもがとても多かった。児童の言葉にあるように、この単元の学習で「学ぶ楽しさ・知る楽しさ」を感じた。「つらかったけど楽しかった。」と言う。これは、問題を解決していく過程で楽しさを見つけたのであり、簡単にできないものを乗り越える事を楽しさと児童は感じている。

○【大変だった】

- ・いつもに比べて課題が大きくて難しかった。
- ・参観日無事発表でき、苦勞を乗り越え良い発表ができ良かった。

初めの段階で児童は苦勞したことがわかる。大きな障害となる壁があったからこそ、乗り越えた時に楽しかったという充実感を味わうことができたことを示している。

○【良かった】

- ・初めはこの先どうなるのと心配だったけれど、なんとかして小枝さんや徐さんに質問してうまく行ったのでよかった。
- ・人のやさしさや人の思いやりは誰にでもあるんだなと思った。
- ・自分にいろんな力がついて役に立ちそう。今までの発表と違い、メンバーで話し合

いためになった。楽しかったし面白かった。

- ・板柳のことがよくわかった。良く作品が出来て良かった。電話できてよかった。
- ・人のやさしさや人の思いやりは誰にでもあるんだなと思った。

(4) 児童の相互評価

相互評価の場としての中間発表会を2回持った。より良い作品をめざして、友達の作品向上のため辛口の意見やアドバイスを言い合ってきたが、発表会では質問や意見の交換を重ね評価し合っていた。

表現方法に関しては、次回も同じ表現方法でレベルアップを図りたいという児童が多く、自分達のチームの表現におおむね満足しているチームがほとんどであった。表現方法の1番希望が多かったものがビデオ・パソコンを使ってプレゼンテーションしてみたいというものであったが、絵に描く、模造紙に上手に書きたいというチームもあった。

違う場所にインタビューしに行きたいという児童もおり、子ども同士の発表が相互に影響し合っている事がわかった。

(5) 教師、保護者、協力者の評価

①教師の評価

担任教師は、他と関わり合うための言語を中心としたコミュニケーションやどのように発想や考えを表現していくかというコミュニケーション能力が、次の単元でどのように影響していくかを教師が見ていくことにしている。この単元だけで評価していくのではなく、総合的な学習の最後の単元「卒業を飾ろう」や他の教科にどのように「自慢情報 Itayanagi」の学習が生かされていくのかをみて評価していきたい。

②保護者の評価

12月8日の日曜参観日の終了後、保護者にアンケート調査を行なった。(アンケートの回収は45人中40人90%近くの家庭からの提出があった。)各項目ごとに代表的な意見を中心に取り上げた。

＜課題設定・活動計画の作成に関して＞

- ・自分たちからテーマに向かい悩んだり、話し合いながら情報を収集して行くすばらしい学習方法だと感じた。

＜問題解決や探求活動に関して＞

- ・大変な中にも楽しんで活動でき、自信を持って発表をしていて「すごいなあ。さすが6年生！！」と感動した。成長して頼もしい感じだった。
- ・子供達の苦勞も手に取るようにわかるようでした。学習は難しい事もあったようですが、いざ発表となるとみんな自信に満ちて輝いていました。

＜主体的な取り組み・協力＞

- ・りんご料理では前々から子供達が相談し合いアイデアを出し合っていて取り組んでいた。材料も誰が何を準備するか考え責任を持ってやっていた。話し合いをし意見をまとめていた。協力する事の大切さがすごく勉強になったのでは。子供の成長につながった。
- ・発表前から家に帰って食事の時などその日調べてきた事を教え、家族にクイズを出してくれたこともある。勉強とは違って別の生き生きした面が見られた。週末になると人任せにしないで集まり、協力してやっていた。

＜視点の変化＞ 知識・情報活用に関して

- ・ふるさとセンターには今までは遊び中心で行っていたが、総合的な学習という視点から観察できた。調べ学習には大賛成。自分以外の事にも目をむける機会を増やす事に

なった。

<人とのふれあいから学ぶ>

- ・地方の子供は都会の子供に比べてコミュニケーションがあまり得意ではないと言う事を聞いた事がある。地方では決まった人間との交流が主になっているからではないかと思う。子供達が成長するに連れて、生活基盤は広い社会に変化していく。今回の『自慢情報 Itayanagi』の発表を見て、全ての発表について拍手を送る。

<まとめの表現について>

- ・マルチメディア学習に関して今後も時代に則した授業を行なっていただきたい。
- ・町民際での国際交流での展示がとてもよかった。たくさんの人が見ていた。

<子供達の成長><子供達から学ぶ>

- ・自分の子は発表する事や人前に出たがらない事が心配だったが、しっかりした声で、口ごもらずに発表するのを見て、ああ、大丈夫なんだな、伸びてるんだなとうれしくなった。元気で楽しそうな姿を見て立派な成長振りが感じられ感動した。
- ・今まで知らなかった国際交流の成り行きが子供達の発表を見て初めてわかった。
- ・以前から中国と板柳の交流の始まりを今回の発表でわかり勉強になった。子供達のふるさとセンターのビデオを見て板柳に住んでいてわからなかった事を初めて知った。

表3 協力者（インタビュー先）の評価一覧表

	質問項目	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	合計
	1 聞いていることが伝わったか。	3	4	4	4	3	4	22
	2 話し方はきちんとしていたか。	3	4	4	4	4	4	23
	3 班で協力して活動していたか。	4	4	4	4	3	4	23
	4 挨拶がきちんとできたか。	3	4	4	4	2	4	21
	5 仕事の邪魔にはならなかったか	4	4	4	4	4	4	24
改善点			質問内容を前もって教えて貰えればもっとスムーズに対応できたと思う	事前にアポをいただけると助かります。資料の準備ができます。		一部の児童だけが話していたのが残念。事前の連絡を正確にしよう。		
励ましの言葉		自分の住んでる町のことをたくさん知って下さい。皆さんが自慢できる町作りをめざしてがんばります。		がんばって勉強してくださいね。	ふるさとセンターをいつでも利用して下さい。	大変良い企画だと思います。	これを機会にいろんなことにチャレンジし、楽しい学校生活を送って下さい。	

※ 一項目は4段階の評定で、4・3・2・1点で項目の合計は24点である。

③協力者（インタビュー先）の評価

「開かれた学校」をめざして学習を進める中で、児童の思いに沿った活動を実践して行

くためには、教師だけで学習を進めるのではなく、地域に住む人達の協力が必要不可欠になる。そこで、今回はインタビューに協力していただいた中から6人の方をお願いをして規準にそって評価をしてもらった。評価に協力していただいた方々には児童が礼状に返信用のハガキを同封し答えてもらった。

表3から子ども達の活動は協力者からどう評価されたかがわかる。【自分の考えを伝える】事に関しては、質問したい事がうまく相手に伝わらないことがあったようだ。相手を意識し自分の考えを伝えることを更に学んでいかなければならない事がわかった。インターネットやファックスでは必要無かった事が、人間対人間の関係では、相手の仕事や立場を考えるとこの事が出てきた。【事前に連絡をする】【事前にアポイントをとる】【質問内容を前もって教える】また【約束の時間を守ること】また、挨拶に関しては誰が口火を切るかで友達同士もめることもあった。

学習の後、ハガキと共に【子ども達が学ばなければならないことを、学校だけでなく、実際の社会に出て体験する事はとても良い事だ。】【がんばって!】という声を協力者の方々からいただいた。【子ども達と話して、学校では総合的な学習などを学習している事を初めて知った。】【自分達も学校の事が良くわからないので、勉強になった。このような機会があれば、またいつでも協力したい。】【ちゃんとしていなかったのは、学校の配慮であって。子ども達はちゃんとやっていた。】など、たくさんの声があった。

4. まとめ

・「言語」を中心としたコミュニケーション能力

子ども達の調査・追求活動は、写真・ビデオ撮影、資料集めの取材などまさに自分の足を使い、自分の頭を使った体験であった。自分の気持を相手に伝えるために、感謝の気持ちを伝えるために、話したり書いたり表現したりした。地域に出かけ、町のたくさんの人々とふれあう体験を通して、子ども達は「言語」を中心としたコミュニケーション能力を高めたと考える。

・「表現」を中心としたコミュニケーション能力

自分達のプレゼンテーション（中間発表会）を2回行う中で、自己評価・相互評価を重ねていった。自分の意図したものが相手に伝わったかどうかを相互評価し合い、結果は自分達にもう一度戻す。そして、その結果をふまえてより効果的な表現をめざし再び調査・追求活動を行う。プレゼンテーションと話し合い活動を繰り返し行う事によって子ども達のプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の2つの能力は高められていった⁴⁾。

・評価について

今回の学習では評価の方法を工夫改善した。学習の指導や具体的・実践的な改善に役立たせる観点から、多様な評価を行うために総括的な評価ではなく分析的な評価、記述的な評価の工夫をした。それによって子ども達の学習の過程においても意識や能力の変化を詳しく把握する事ができた。また、多様な方向（自己評価、相互評価、教師の評価、保護者・協力者の評価）から評価する事により、授業の改善していくべき点、児童も教師も学ばなければならない点や今後の課題などが明かになった。

5. おわりに

「国際交流チーム」は板柳町国際交流協会の協力を得て町民祭で、「ふるさとセンターチーム」は「いたやなぎ雪祭り」の会場で役場経済課の協力のもと情報発信を行った。

「アップル餃子」や「角切りりんごホットケーキ」を考えたチームはコンテストへの応募も考えている。「自慢情報 Itayanagi」の学習は学習が終えた3学期になった今でも多種多様な発展進化を続けている。この学習で子ども達、そして、私自身たくさんの経験

をした。泣いたし、落ち込んだし、怒ったし。周囲には難しく大きな壁ばかり。おまけに逆風もふく。しかし、そんなことを吹き飛ばすたくさんの勇気やパワーを児童は持っている。保護者からの声である。「自分の子は発表する事や人前に出たがらないので心配だったが、しっかりした声で口ごもらずに発表するのを見て、ああ、大丈夫なんだな。伸びてるんだなとうれしくなりました。子供達の元気で楽しそうな姿を見て立派な成長振りが感じられ感動しました。」「子供達の苦労も手に取るようになるようでした。学習は難しい事もあったようですがいざ発表となるとみんな自信に満ちて輝いていて大人の私達も元気をもらいました。」それぞれのチームにそれぞれのドラマがあった。

板柳北小6年生の子ども達の学習「自慢情報 Itayanagi」に協力下さった方々に心より感謝いたします。「確かその写真あるはずだ。今、電話してみるから。」子ども達がご迷惑をかけたにもかかわらず、たくさんの資料とお話をして下さり激励の手紙まで下さった教育委員会の方々。超多忙な中でも、全面的なバックアップ体制で支援して下さった板柳町役場総務課、経済課、企画財政課、電算室の方々。ふるさとセンターの皆様、朝早いセリの場面の撮影で協力下さったりりんご市場の方々。1番苦しい時に展示の場を与えて下さった国際交流協会の皆様、町のお菓子屋さん。板柳北小の諸くん職員の皆様。皆様のお力添えでのおかげでとても楽しくたくさんのご事学ばせていただきました。この学習では児童はもちろんのこと、地域の方のあたたかい心を1番感じさせられたのは担任である私かもしれません。

沢山の困難に阻まれながらも、解決方法を考え協力しあったこの学習ではお互いに得るものが多かった。【子供は学ぶ存在で、大人は教える存在だけではない。共に学び、共に伸びて行く関係である】このことをつくづく感じた総合的な学習であった。子ども達は今、総合的な学習『卒業を飾ろう』に取り組んでいる。卒業式の会場の飾りつけは「白いりんごの花と真っ赤なりんごのハーモニー」りんごの枝にりんごの花を咲かせるため白い半紙で作った花びらに薄紅色の絵の具で一つ一つ色付けをし作り上げた。和紙で作ったりんごには保護者やお世話になった人達への感謝のメッセージをつける。「自分たちは板柳のりんごの事をたくさん勉強したし、りんごに守られて自分たちは生きているから。」1人の女の子が言った。「それじゃあ、卒業パーティーにはふるさとセンターのジュースで乾杯だ。」発想は広がる。

「自慢情報 Itayanagi」総合的な学習のこのタイトルも1人の女の子の考えが元になっている。振り返って見ると本当に本当に楽しい学習だった。子ども達は、この学習を大人になっても忘れずに覚えているだろうか。ふるさと板柳の風景と共に。

情報発信に関して直接町の人達の声聞き、言葉を交わす事によって児童の学習への理解と協力を得る事ができた。今回は、町民祭やいたやなぎ雪祭りに作品を出展させてもらい「学校はこんな事をやっているよ」と町の人達に情報発信が出来た。わざわざ時間を作り学校に出向き、打ち合わせもして下さった。「開かれた学校」とは自分達も出て行き相手の事も受け入れる学校作りであると思う。

引用文献

- 1) 文部省 (2000) ; 小学校学習指導要領解説, p. 52.
- 2) 奈須 正裕 (2001) ; 総合的な学習の評価をめぐる問題状況と解決への方略, 2001 教職研修 3 月増刊, pp. 4 - 7
- 3) 鈴木 容子 (1999) ; 地域教材の中でプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力をどう磨くか, 教職研修, pp. 142-143.
- 4) 上掲書

参考文献

有田 和正 (2000) ; 地域教材の持つ学びの多面性・総合的性格とはどのようなものか, 教職研修 7月増刊号, p. 22.
 北 俊夫 (2000) ; 総合的な学習と地域教材・地域学習との相互関連をどうとらえれば良いか, 教職研修 7月増刊号, p. 20.
 宮田 敦子 (2001) ; 日本果実 Vol.57 「日本一のりんごの里」づくりをめざして, pp. 40- 43.
 文部省 (1999) ; 宮崎大学教育文化学部附属小学校, 特色ある教育活動の展開のための実践事例集 — 「総合的な学習の時間」の学習活動の展開—, pp. 252-253.
 2000年板柳町勢要覧, pp. 26-27, p. 40.

参考資料 1

<板柳町に関するアンケート 1>

板柳町の特徴(特質)はどんなところですか?

思い当たるところに○をつけてください。

何こつけても良いです。

1. りんご(ジュースも含めて) 2. 米 3. 岩木山 4. 岩木川 5. 津軽平野 6. ふるさとセンター 7. あぶる
 8. 公民館 9. 役場 10. りんご市場 11. 雪が多い 12. 冬寒く夏暑い 13. 自然環境が良い 14. 緑がたくさんある
 15. 文化的な町 16. 歴史のある町 17. パワーのある町 18. 国際交流の町

(ア. 関係のある国は)

○その他ありましたらご自由に書きましょう。

参考資料 2

<板柳町に関するアンケート 2>

質問項目① 「板柳町に生まれて良かったと思いますか？」

とても yes 4 3 2 1 no

質問項目② 「板柳町に将来ずっと居たいですか？」

とても yes 4 3 2 1 no

質問項目③ 「板柳町に興味がありますか？」

とても yes 4 3 2 1 no

質問項目④ 「板柳町のために役だつ事を何かしたいですか？」

とても yes 4 3 2 1 no

質問項目⑤さて、何点がつくでしょう。

・板柳町はパワーがある町 ・板柳町は健康な町 ・板柳町は明るい町

4 3 2 1 4 3 2 1 4 3 2 1

・板柳町の人々は幸せ ・板柳町は淋しい町 ・板柳町は都会

4 3 2 1 4 3 2 1 4 3 2 1

・板柳町を色で表すと、また、その理由は